

てどりがわ
手取川

令和三年五月三十一日

作詞 大中臣正比呂

(一)

春巡り^{めぐ}短き命惜しむらく

果ては水辺に浮かぶとも

あなたの傍に^{そば}桜花^{さくらばな}

ああ、散りゆく今宵^{こよい}手取川

(二)

夏の風涼しく吹けば思い出す

遠き青葉の富士の峯

あなた迎える^{かりのみや}飯宮

ああ、花咲く未来手取川

(三)

憐れみて^{かささぎ}鵲来たり敷き詰めし

渡す紅葉^{もみじ}の橋の先

あなたに逢える一念は

ああ、星の彼方^{あなた}の手取川

(四)

日は満ちて月に別れを告げる今

遠き根雪^{ねゆき}の高千穂に

あなたは行ってしまったの

ああ、幸多かれと^{あはれ}手取川

